[事案 2020-200] 新契約無効請求

・令和3年3月22日 裁定終了

<事案の概要>

募集人の説明不足を理由に、既払込保険料と解約返戻金の差額の支払いを求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成26年12月に契約した個人年金保険について、加入を主導した自分の父親は、保険料を5年間しか支払うつもりがないことを伝えていたにも関わらず、募集人から、早期解約の場合の元本割れリスクの説明を受けなかったことから、既払込保険料と解約返戻金の差額を返還してほしい。

<保険会社の主張>

申立人の父親は、自身の存命中は保険料を支払う旨を述べており、5年間しか保険料を支払うつもりがないとは言っていなかったことから、申立人の請求に応じることはできない。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等および和解を相当とする事情の有無を確認するため、申立人および募集人に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、本契約を早期解約した場合の元本割れリスクの説明がなかったとは認められず、その他保険会社に指摘すべき特段の個別事情も見出せないことから、和解による解決の見込みがないと判断して、手続を終了した。